

紹介受診重点医療機関選定にあたっての補足意見（白石共立病院）

1 今回要件を満たさなくなった理由について

- ・今回、白石共立病院は紹介受診重点医療機関の要件のうち初診要件（初診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合が 40%以上）を満たしておらず、再診要件（再診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合が 25%以上）のみ満たしている。
- ・この理由は、令和 4 年度はコロナ感染拡大により発熱外来による初診の外来患者が急激に増加し、紹介受診重点外来の患者が減少したことによるものと考えられる。初診患者のうち、発熱外来の患者を除いた数で紹介受診重点外来の実施割合を再計算すると、初診要件も満たすことになる。

（紹介受診重点外来の実施割合）

- ① 初診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合：
 $38.2\% < 40\%$ (2,313 人/6,057 人 \div 38.2)
- ② 発熱外来の患者を除いた初診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合：
 $52.7\% > 40\%$ (2,313 人 / {6,057 人 - 1,665 人} \div 52.7)
- ③ 再診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合：
 $34.4\% > 25\%$ (80,832 人/27,776 人 \div 34.4)

【参考】初診の外来患者数及び再診の外来患者数（令和 5 年度外来機能報告の結果より）

- ・初診の外来患者：6,057 人（前年度より 500 人程度増加）
（初診の外来患者のうち発熱外来の患者：1,665 人）
- ・初診の外来患者のうち紹介受診重点外来の患者：2,313 人（前年度より 1,000 人程度減少）
- ・再診の外来患者：80,832 人（前年度より 2,000 人程度減少）
- ・再診の外来患者のうち紹介受診重点外来の患者：27,776 人（前年度より 700 人程度減少）

2 今後要件を満たす見込みについて

初診の外来患者における紹介受診重点外来の実施割合は令和 4 年度が 44.6%、令和 5 年度が 38.2%と、40%前後で推移しており、コロナの影響が落ち着いた今後は 40%を超え要件を満たす見込みは十分にあると考える。

3 紹介率・逆紹介率

紹介受診重点外来に関する基準を満たさない医療機関であって、紹介受診重点医療機関となる意向を有する医療機関については、協議の場において、紹介受診重点外来に関する基準に加えて、紹介率・逆紹介率等を活用して協議を行うこととなっている。

具体的な水準は、紹介率 50%以上かつ逆紹介率 40%以上であり、白石共立病院の令和 4 年度における紹介率・逆紹介率は下記のとおりである。

- ・紹介率 26% (<50%)
- ・逆紹介率 27% (<40%)

【県から補足（令和 5 年度外来機能報告の結果より）】

ただし、南部構想区域の他の病院と比較してみると、紹介率・逆紹介率はいずれも 19 医療機関中 5 番目となっており、高い方に入る。

4 その他地域の外来医療提供体制において果たしている役割

- ・当院は、内科、神経内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、消化器内科、呼吸器内科、放射線科など多数の診療科の外来を行っているほか、近隣医療機関からの紹介患者を積極的に受け入れている。
- ・また、CT、MRI などの高額医療機器を有することで当院受診外来者への撮影は元より、他院受診患者からの撮影依頼も多く、地域医療に貢献している。

【県から補足（令和 5 年度外来機能報告の結果より）】

- ・令和 6 年 1 月 30 日時点での標ぼう診療科は（内・呼内・循内・消内・糖尿病代謝内・腎内・人工透析内・神内・小・皮・アル・リウ・外・整外・呼外・消外・気管食道外・肛外・脳外、心臓血管外・リハ・救急・病理診断・放・麻酔）。
- ・令和 4 年度において、初診患者数（外来＋入院）は 5,025 人（19 医療機関中 5 番目）、紹介患者数は 1,294 人（19 医療機関中 4 番目）、逆紹介患者数は 1,366 人（19 医療機関中 4 番目）。また、紹介患者数と逆紹介患者数のいずれも武雄杵島地区では新武雄病院に次いで 2 番目に多くなっている。
- ・高額医療機器については CT と MRI を 1 台ずつ保有している。直近（令和 3 年度中）の稼働状況は CT が 2,436 回（CT を保有する病院で 16 医療機関中 4 番目）、MRI が 2,521 回（MRI を保有する病院で 7 医療機関中 3 番目）いずれも共同利用及び依頼元への読影結果の提供を行っている。